

平成21年の新春

あけましておめでとうござります



西粟倉市長
道上 正寿

素晴らしい天候に恵まれた昨年は、まれにみる豊作に10アール当たり反収が600キログラムを越す圃場が沢山あったと聞いています。経済状況の芳しくない状況、色々な資源の逼迫で食糧自給の問題が急浮上する中で、唯一明るい話題で一息です。また、台風の上陸がなかったことの影響でしょうか、秋の紅葉の素晴らしさが格別で、田舎の四季の豊かさを改めて強く感じられたことでしょう。

一方で、突然の岡山県の財政危機宣言、過去の情報発信の不確実性と将来への不安を感じたのは私だけでしょうか？また、アメリカのサブプライム問題からの金融危機は、100年に一回の世界経済不況に展開して、日本でも金融機関、証券及び製造業等の大企業の経営不振あるいは派遣社員の解

雇が毎日メディアで報じられています。我々が生活する地域社会では、従来からあまり景気動向の影響を大きく受けることなく実体の中で生活してきました。ところが利便性が高まり、情報化が推進され、グローバル化の生活環境からすると、日々の生活への影響は避けられません。

近年強引に進められた市場原理一辺倒の政策、規模の原理、小さな政府の推進など、大半の政策と市町村合併も含めた展開は、今回のアメリカ発の世界恐慌の原因と明らかに同一犯です。私自身は、確かに厳しい経済環境は心配ですが、市場だけが優先される経済中心の国づくりは決して賛成できません。環境に優しく、上質な生活環境の創造から生じる経済行為の積み重ねと計画経済の新たな仕組みが必要で、今回の恐慌を、行き過ぎた市場優先の社会を冷静な視点で見直すべき機会と捉えることではないでしょうか。

さて、西粟倉の課題ですが、財政的には格差社会の改善対策の充実に、平成20・21年度については

交付税等の財源がやや増額する見込みです。財政4指標の健全性の確保と極めて厳しい国の財務体質からすると、長期的な要因での歳入の増額ではないと考えます。したがって、将来においても財政規律を守ります。

農林業の持続も大きな課題です。なんとといっても元気な地域づくりは、農林業の元気と農家の健全性の維持です。過疎と高齢化が進み、空き家と荒廃田が目につきます。空き家対策と荒廃田の管理の徹底を優先課題と位置づけます。また「木のむら」として、先達が頑張ってきた樹齢50年の5000ヘクタールの人工林を、環境に配慮した「100年の森づくり」として次の世代に引き継ぐことは我々の使命と考えます。新しい国の特例間伐制度を積極的に利用して、緊急間伐を強く推進していきます。平行して、地域循環する地域資源として、木の多様性と需要と供給を管理する仕組みづくりに挑戦していきます。

市町村合併をしない選択をして4年が経過しました。全国では約3200市町村が1700あまりに再編成されて合併の意義の検証が今必要です。さらに道州制、第2次の地方分権改革が議論されています。全国には健全な合併も沢

山ありますが、地域事情を考慮しない規模と市場原理だけの広域では、住民の期待に届えられていないのも現状です。合併した市町村の住民アンケートでは、大半の地域で合併は良くなかったが70%を超えているにも関わらず、中央で成果だけが拡大解釈されることは地方分権に反するのではと感じています。成熟社会での低コスト満足社会の構築に向けて、住民参加と補完、国と地方の役割、権限及び財源移譲等、100年の国家論の中で実体の伴う広域連携の模索がまず必要でしょう。

年金・医療・介護・長寿保健の安心した将来が模索できないでいます。大きな政府としての国の役割と、長期的な視点での財源と運営説明が絶対必要です。過疎と高齢化が進む西粟倉の課題は明確です。国の政策はともあれ、すべての住民の皆さんが、日々安全で安心して暮らせる小さな共同社会の創造が目標です。行政課題がたくさん山積していますが、一機に解決する妙薬はありません。村民一人一人を巻き込みながら問題解決に挑戦していきます。繰り返して「人が村をつくり、村が人を育てる」を理念とします。村民の皆様のご健康とご健勝をご祈念申し上げて新年のごあいさつとさせていただきます。



西粟倉村議会議長
青木 秀樹

あけましておめでとうござい
ます。本年が皆様に健やかな年とな
りますよう、心よりご祈念を申し
上げます。

四季のうつろいを感じる余裕の
ないまま日々を送った昨年でし
た。そういう忙しさの割には、充
実感のない一年だったのが残念で
す。自らの努力の方法が間違っ
ていたのか、あるいは懸命さに欠け
ていたのかもしれない。反省し
きりであります。

今までずっと批判し続けてきた
「市場原理主義」の総本山、米国の
金融システムが崩壊の危機にあり
ます。超効率的な「お金でお金を
売り買いする取引」は、「将来の利
益の可能性」までを商品にした取
引へと拡大し、さらに多くの利益
が見込める魅力的な投資へと向か
いました。これが世界中の金融セ
クターを巻き込んだ金融バブルの
始まりでした。危険な投資が魅力
的な投資に変化していく時、これ

を阻止すべき金融の専門家は揃っ
ていても結局破たんが避けられな
かったのは、市場原理主義の宿命
なのかも知れません。金融の無国
籍化によって、このバブル崩壊の
後遺症は世界中のあらゆる分野に
未知の影響を及ぼすと思われま
す。日本も例外ではありません。想像
だにしないような分野に驚愕の事
実を発見することになるでしょう。
我々にとっても、今年以降さらに
正念場は続くものと思われま
す。

日本の食料自給率は約40%とい
われています。これは世界173
国、地域の中で135番目の自給
率だそうです。これも市場原理主
義に伴って、農業が犠牲にされて
きた結果です。しかし、これから
先の不安定な国際情勢と現在67億
人で増加を続ける世界人口、気象
の変化などによる不作要因など考
え合わせると、効率とかコストと
か言っている余裕はないのです。
一刻も早い農業、林業など一次産
業の再活性化が必要です。経済の
歪みによる大量失業を受け止める
基盤が、他にあるでしょうか。い
よいよ食糧生産セクター、田舎の
出番が回って来ようとしています。

『温故知新』

古きを温ねて新しきを知る、と
いう諺があります。物が溢れ、便
利で過去とは比べようもなく発展

した現代でも、人の世を生き抜く
知恵に関しては、一冊の本とその
一ページを比べる程の差があるよ
うに思えます。西粟倉の歴史、文
化を辿ってみると、近世は言うに
及ばず、縄文時代、弥生時代から
奈良、平安、鎌倉から南北朝、戦
国時代をこの地で過ごしたであろ
う人々の痕跡や、史跡、寺社等
国山地の一寒村にしては意外に豊
富な材料を内包しています。それ
らを歴史的背景の中でつなぎ合
せていくことで、往時ここに生き
た人の暮らしがおぼろげながら浮
かんてくるようです。明治以降の
出来事に関してはほぼ確実な形で
記録されていますので、当時の人々
の考え方や生活の変遷について、
かなり詳しく知ることができま
す。食糧や物資が十分に満たされな
い時代にも拘わらず、考え、工夫し、
躊躇なく支え合いながら世代を生
き抜いている印象です。

また、伝統や慣習に対して真摯
に取り組む誠実さを感じます。効
率主義、弱肉強食、優勝劣敗など
という外国かぶれの即物主義とは
違う「和をもって尊しと為す」の
日本文化が立派に生きています。

我々現代人は「裕福になりながら
不安、不幸になっていく仕組み」
からの脱却を図る必要があると思
います。そして、その最前線にい
るのは都市の住民ではなく、我々

田舎に住む住民なのかもしれませ
ん。今こそ「小さいからできる。
少ないからできる」この村の本領
を発揮すべき時が来ていると思
います。

『新しい住民』

さて、西粟倉村では雇用対策協
議会を中心に、一昨年より関西地
区へ向けて村内企業への就職説明
会を行っています。徐々に成果が
見えてきています。若い人が多い
のも特徴ですが、しつかり自身の
生き方を見つめ、再出発を懸ける
真摯な方々が増える傾向にありま
す。職場は森の村振興公社、森林
組合、木薫などまだ限定的ですが、
これから更にすそ野が広がって
いくものと期待しています。彼ら
はある意味、西粟倉の住民に得難い
素養や能力の持ち主です。いわば
パイオニア（開拓者）と言っても
いいかもしれません。彼らをうま
く受け入れ、共存共栄的な暮らし
の創造に向かうことができれば、
村の将来はより明るい方向に向かっ
ていくに違いありません。衣、食、
住全てに関して、皆さんの絶大な
ご協力が必要とさせていただきます。
よろしく願いをいたします。

